

事務事業チェックシート

事務事業No 322 事業名 動物との共生推進事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	3	生活衛生対策の推進
取組方針	3	人と動物が共生できる社会の実現

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令	動物の愛護及び及び管理に関する法律	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	生活保健課	蔵内 益郎 (488-5114)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	保健衛生費		
	目	狂犬病予防費		
	大事業	狂犬病予防事業		
事項	動物との共生推進事業			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か) ・動物の愛護に関する事項を定め、市民の間に生命を尊重する気持ちを育てる。 ・動物の管理に関する事項を定め、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害並びに生活環境の保全上の支障を防止する。 ・人と動物の共生する社会の実現を図る。	事業内容 ・動物の愛護及び適正飼養についての啓発 (小学校対象の動物愛護教室、地域猫対策、しつけ方教室、動物愛護フェア等) ・保護した犬・猫の譲渡				
	実施内容	平成26年度 小学校への出前授業 (わうくらす) : 56回 しつけ方教室の開催 : 8回 健康応援フェア (動物愛護コーナー開設) : 1回 犬猫の譲渡講習会 : 54回	平成27年度 小学校への出前授業 (わうくらす) : 56回 しつけ方教室の開催 : 8回 和歌山県動物愛護フェスティバル : 1回 犬猫の譲渡講習会 : 51回	平成28年度 ・小学生対象の動物愛護教室 (わうくらす) : 76回 ・しつけ方教室の開催 : 8回 ・健康応援フェア (動物愛護コーナー開設) : 1回 ・犬猫の譲渡会 : 8回	平成29年度 ・小学生対象の動物愛護教室 (わうくらす) : 76回 ・しつけ方教室の開催 : 回 ・健康応援フェア (動物愛護コーナー開設) : 1回 ・犬猫の譲渡会 : 12回	平成30年度 ・小学生対象の動物愛護教室 (わうくらす) : 76回 ・しつけ方教室の開催 : 回 ・健康応援フェア (動物愛護コーナー開設) : 1回 ・犬猫の譲渡会 : 12回

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	721	448	636	439	663	483	588		588	
伸び率 (%)	-	-	▲11.8%	▲2.0%	4.2%	10.0%	▲11.3%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	5,424	5,825	5,820	5,237	5,237	7,117	7,117	7,117	
	正規職員以外	1,026	1,406	1,569	3,613	3,613	2,953	3,046	3,046	
	小計	6,450	7,231	7,389	8,850	8,850	10,070	10,163	10,163	
国庫支出金										
県支出金							106		106	
市債										
その他										
一般財源 (税等)	721		636	439	663	483	482		482	
所要人数 (人)	正規職員	0.73	0.78	0.78	0.69	0.69	0.9	0.9	0.9	
	正規職員以外	0.51	0.67	0.78	1.70	1.70	1.43	1.43	1.43	
主な予算内訳	報償金 (300千円) 消耗品費 (158千円) 等									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 小学生対象の動物愛護教室 (わうくらす) の実施回数	回	目標値	53	58	63	65	65
		実績値	56	56	76		
		達成度 (%)	105.7%	96.6%	120.6%		
活動指標 犬猫の譲渡回数	回	目標値	12	12	12	12	12
		実績値	11	6	8		
		達成度 (%)	91.7%	50.0%	66.7%		
成果指標 犬猫の譲渡数 (犬猫合計)	%	目標値	50	55	60	65	95
		実績値	40	99	78		
		達成度 (%)	80.0%	180.0%	130.0%		
成果指標	頭	目標値					
		実績値					
		達成度 (%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	動物愛護についての関心が高まりその普及が進んでいく反面、動物の遺棄、猫等による生活環境への影響等、動物に関係する様々な事柄が社会問題化しているため、同事業を積極的に推進していく必要がある。
見直し・改善内容	動物愛護教室、譲渡会等の開催回数の増加を検討。 譲渡会についての新たなPR方法を検討。 地域猫対策の推進。